

第29回 令和7年5月27日（火）

「目標について思うこと。」

日本人は真面目であるがゆえに「目標の硬直性」の罠に嵌ってしまうことがあります。最初に会社など組織が目標を立て、中間管理職がその達成に囚われ、現場が疲弊する構図です。

達成のために手段を選ばなくなると「自爆営業」や「違法行為」につながることもあります。

私は中日ファンなのですが、4月はずっと「優勝を目指す」と言って、GWには先が見えるのですが、それでも目標を変えることはなく、結局翌年も同じスタートになります。日ハムが1年目はくじ引きで打順を決めたりして勝ちにこだわらなかったのと対比的です。

目標の先に「目的」があります。自動車の会社だったらお客様に自動車を楽しんでほしいという思いと、働いている社員を幸せにしたいという思いがあるはずです。その歯車を狂わせているのが「数字」や妥協できない無理な「目標」なのではないかと思います。

「目標」は目的のためにある手段にすぎません。そしてスタートは自分です。まずは自分がどうありたいかが出発点です。上司に責められて目標達成が目的になることは間違っていると考えています。

それではどうすればいいか。改善策は「**自走しながら柔軟に目標を変えていく**」ことだと思います。組織みんなで話し合っ、いまの環境や立ち位置、現実的な方策などを考えて目標を変更して進んでいく。目標を変更することは妥協でも挫折でもありません。

ウェルビーイングという言葉がありますが、これを追求できない目標は目的と合致していないと思います。現場が自分たちで目標を管理して、大きな目的を達成することが正しい在り方だと思います。

目標の恐ろしいところは疑えなくなってしまうところです。ロシアもウクライナも究極の目的は国民が幸せに暮らすことだったと思います。それが「戦争に勝つこと」が目標になり、いまや国民の命を奪って戦争を継続しているのです。

スポーツの目的は競技を楽しむことですし、学校教育の目的は子どもたちが社会で幸せに暮らせるようになってくれること、企業の目的は社会の未来を明るくすることと社員の幸せをかなえることだと思います。

私は「F U J I F I L M」の「未来は変えることができる」というフレーズが大好きです。あの会社の目的が伝わるような気がします。